

平成31年度学校自己評価システムシート (県立岩槻北陵高等学校)

目指す学校像	節度と規律を重んじ、新たな自分の創造に向け、主体的に学び続ける生徒を育む学校
--------	--

重点目標	1 生徒の学ぶ意欲と確かな学力を向上させ、生徒一人ひとりの進路実現を図る 2 家庭・地域と学校が共に教育力を高めていく 3 基本的生活習慣の確立をめざし、規律ある学校生活を送る 4 生徒の自主活動を通し、社会に貢献する心豊かな人間形成を図る
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (月 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (月 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	成績不振者、のべ欠点数は減少傾向にあり、成績優秀者は増加傾向にある。進路ガイダンスや、基礎力診断テスト等を通し、進路に対する意識は向上してきている。進学を希望する生徒も増えてきており、進学希望者に対する指導を充実させる必要がある。	(1)学習環境を整備・充実させ、学習に集中できる環境を整える。学び直しを活用し、生徒の基礎基本を徹底させ、「わかる」授業を目指す。 (2)段階的に生徒の進路意識を向上させ、生徒一人一人の望ましい進路実現を目指す。	①チャイムtoチャイムの授業実施。日々の授業規律の確立。 ②学習サポーターを活用したTT授業および考査前の学習会を実施。 ③授業確保に向けた行事予定の作成。 ④学び直しによる基礎学力向上。 ⑤自己理解を進めるための様々な取り組みを進める(1年) ⑥自己実現のための進路ガイダンス機能を充実させ、進路意識の向上を図る。(2年) ⑦JSTを活用した面談を充実させ生徒全員の進路希望実現を図る(3年)	①成績優秀者5%増加、成績不振者5%減少。 ①「学習アンケート」における「わかる」回答の増加。 ②学習サポーターの活用回数増加。 ③授業回数の増加。 ①基礎力診断テストの結果。(4月と1月の年2回実施) ②自己理解を進めるための活動 ③進路ガイダンス後の生徒からの評価 ④生徒の進路希望実現割合(100%を目指す。)			
2	行事や公開授業の保護者の参加率は増加傾向にあるが、まだまだ低い。学校の取組を、地域、近隣中学校、外部機関にアピールしていく。HPや一斉メールの活用が課題である。	(1)HPやhokuryo.now(学校通信)を用いた情報発信を充実させ、家庭や地域に本校の取り組みが伝わる体制を整える。 (2)学校説明会や中学校訪問で、在校生に参加を呼びかけ、生徒の活躍の場をより多く設定していく。	①hokuryo.nowを岩槻区内8中学校に配付。 ②保護者向け授業公開(年2回)、授業公開週間の実施。 ③学年通信や保健便りの発行。 ④保護者に学校行事への積極的な参加を呼びかける。 ①学校説明会ポスター作成。中学校への配付。 ②中学生向け公開授業の実施。	①hokuryo.nowの発行数。 ②保護者の参加数。 ③学年通信、保健便りの発行数。 ④各種行事・研修会への保護者参加数。 ①学校説明会の参加者増加。 ②公開授業への参加者数。			
3	以前よりも基本的生活習慣が身につけている生徒は増加しているが、欠席や遅刻が常習化している生徒も多い。	教職員間で生徒指導体制の共通理解を図り、学校全体として、系統的・一貫した指導を推進していく。自主自律の精神の育成のため、マナー・時間管理の意識を向上させる。	①定期的な身だしなみ指導と確認強化週間の設置。 ②遅刻回数の自己認識と特別遅刻指導の実施。 ③保護者による挨拶運動等の実施。	①身だしなみ指導該当者の減少。 ②遅刻指導対象者を昨年度より10%減少。精勤、皆勤者数の増加。 ③挨拶運動への保護者参加数。			
4	生徒会活動や部活動は活発になってきている。生徒の自己有用感を高められるよう、様々な場面で生徒が主体的に活動し、活躍できる場を設ける。	生徒会を中心に、生徒の主体的な活動を促す。団活動やその他の行事を通し、生徒の自己管理能力を高めていく。教育相談については、外部との連携も強化し、特別支援教育をより一層充実させる。	①各行事で、生徒主体の運営ができるように、生徒会中心準備をする。 ②文化祭の内容の見直し、発展させる。 ③新たな部活動勧誘を計画する。 ④委員会活動、団活動を活性化させる。 ⑤教育相談、特別支援教育の充実を図る。	①生徒中心の行事運営ができたか。 ②文化祭の生徒の満足度が高く全体を通して成功することができたか。 ③部活動の加入率増加。 ④昨年度を上回る生徒の活動ができたか。 ⑤保健室利用者数や、相談者への対応。SCや教育相談員、巡回支援員、外部機関との連携。			

学 校 関 係 者 評 価		
実施日	令和 年 月 日	
学校関係者からの意見・要望・評価等		